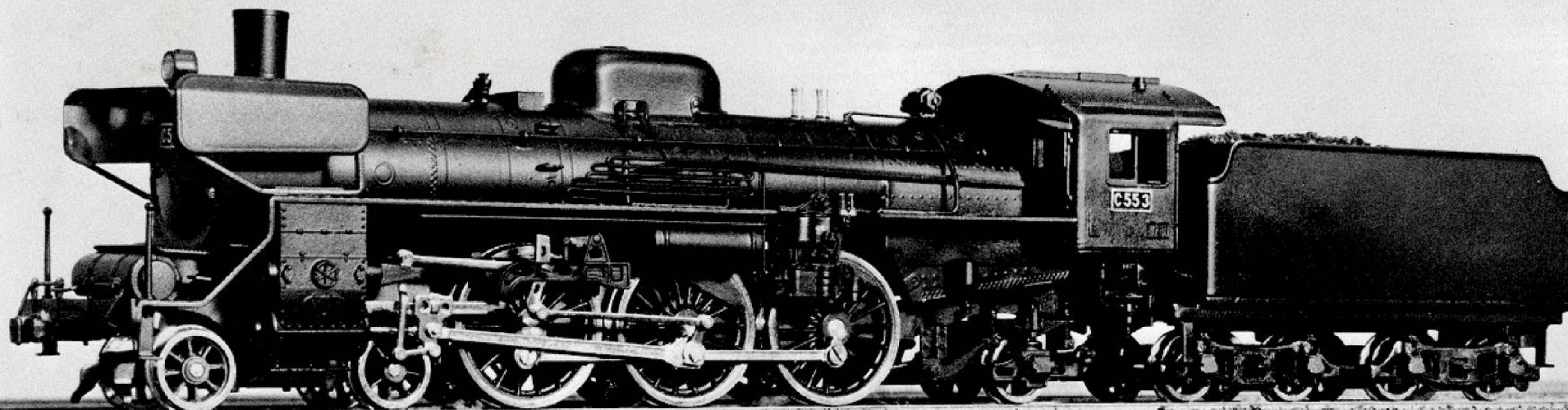




C55 門鉄型デフ

このC55の門鉄型デフはC57門鉄型デフと同じ条件で作られ、やはり九州で使用されました。C55は生まれが早いわりに最後まで使用された機種で、この門鉄デフを付けた吉松機関区のC55は記憶に新しいところです。スポーク車輪と門鉄型デフの組合わせはドイツ蒸機に最も似かよった日本型蒸機と言えるかもしれません。普通型デフ付と共に特徴ある動輪はダイカスト型を新開発。C57と同じ様で異なるドーム、デッキ、等プレス型を新造しています。この繊細な機種を本格SLファンのあなたの鉄道にぜひ配置して下さい。

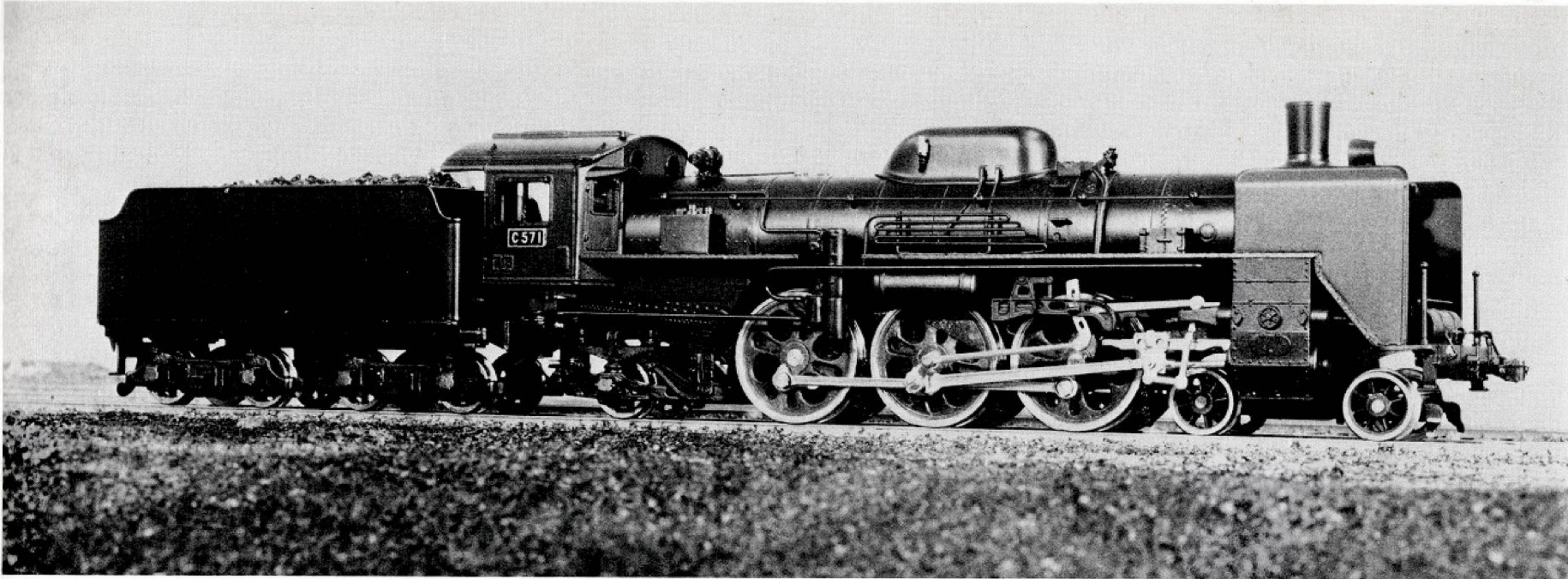
実機データ

使用初年	昭和7年(門デフ改造)	製造数	10輛(門デフノミ)
重量	115 t	引張力	10.180Rg

模型データ

動輪	21.8φ特種スポーク	全長	255mm
重量	630 g	最小通過半径	450R
ナンバープレート	C 553・26・57		

完成品	No.1012
ヌリキット	No.1623
未塗装キット	No.1624



C57

C57はC51・C54・C55と続いた乙線用旅客機関車の最後の形式として不動の地位を築いた名機です。C型蒸機では初めてボックス動輪を採用し、D51と共に近代国鉄蒸機のスタイルを確立させました。その優美な形態は“貴婦人”とさえ呼ばれています。

昭和12年製造開始以来各部に改造が加えられ一次型から四次型まであり特に四次型は同じC57でもかなり異った形になっています。製造数は各型合わせて201輛に及び日本各地で活躍しました。この模型は最も一般的な一次型を取っております。

実機データ

使用初年	昭和12年	製造数	138輛 (一次型のみ 門デラを含む)
重量	115.5 t	引張力	10,330kg

模型データ

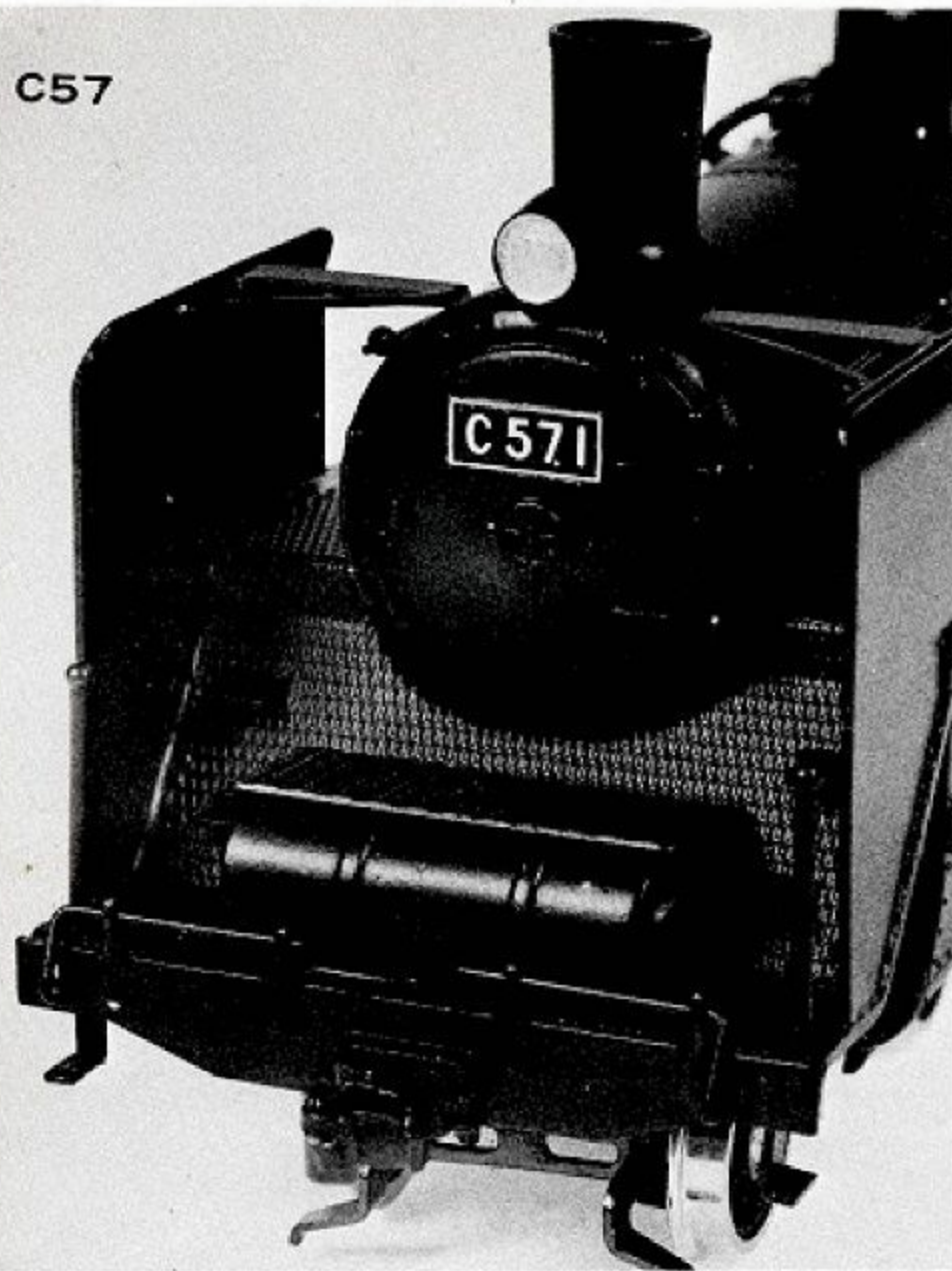
動輪	21.8φボックス	全長	255mm
重量	630 g	最小通過半径	450R
ナンバープレート	C 571・8・138		

完成品 No.1003

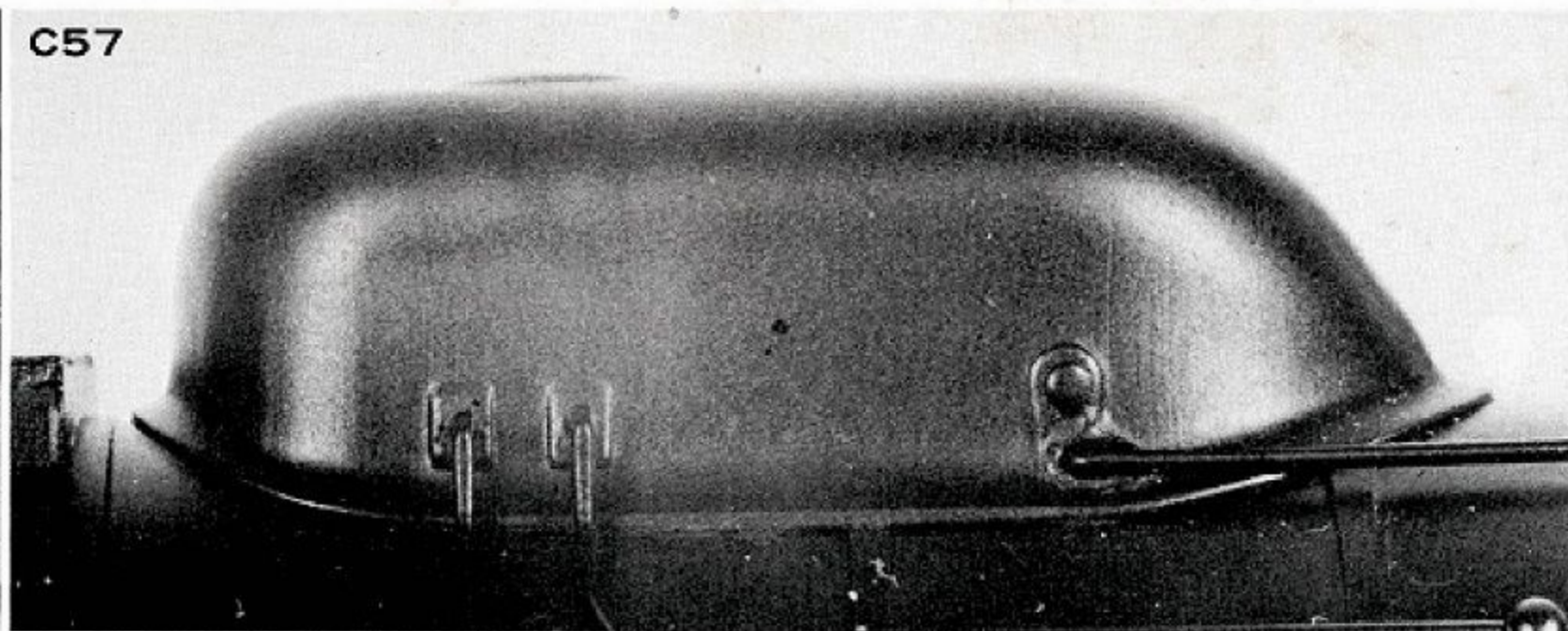
ヌリキット No.1605

未塗装キット No.1606

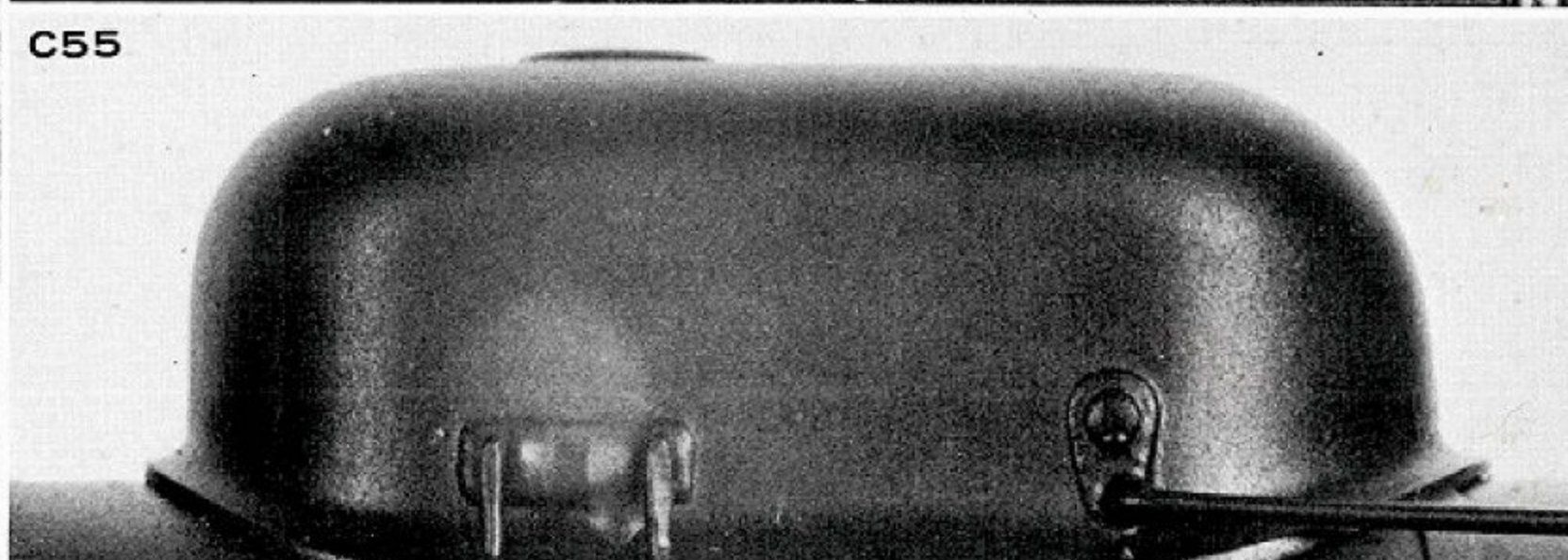
C57



C57



C55

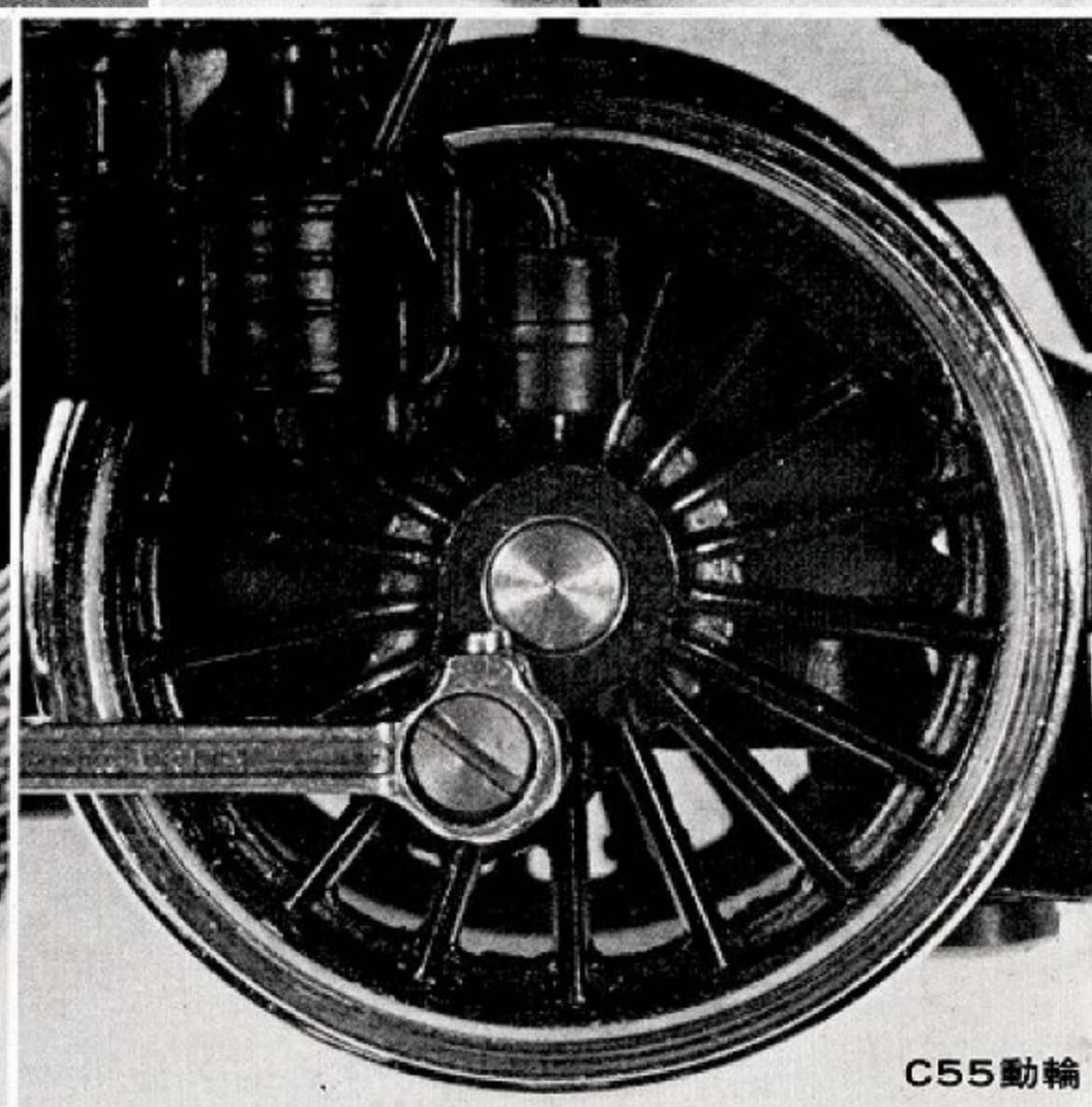
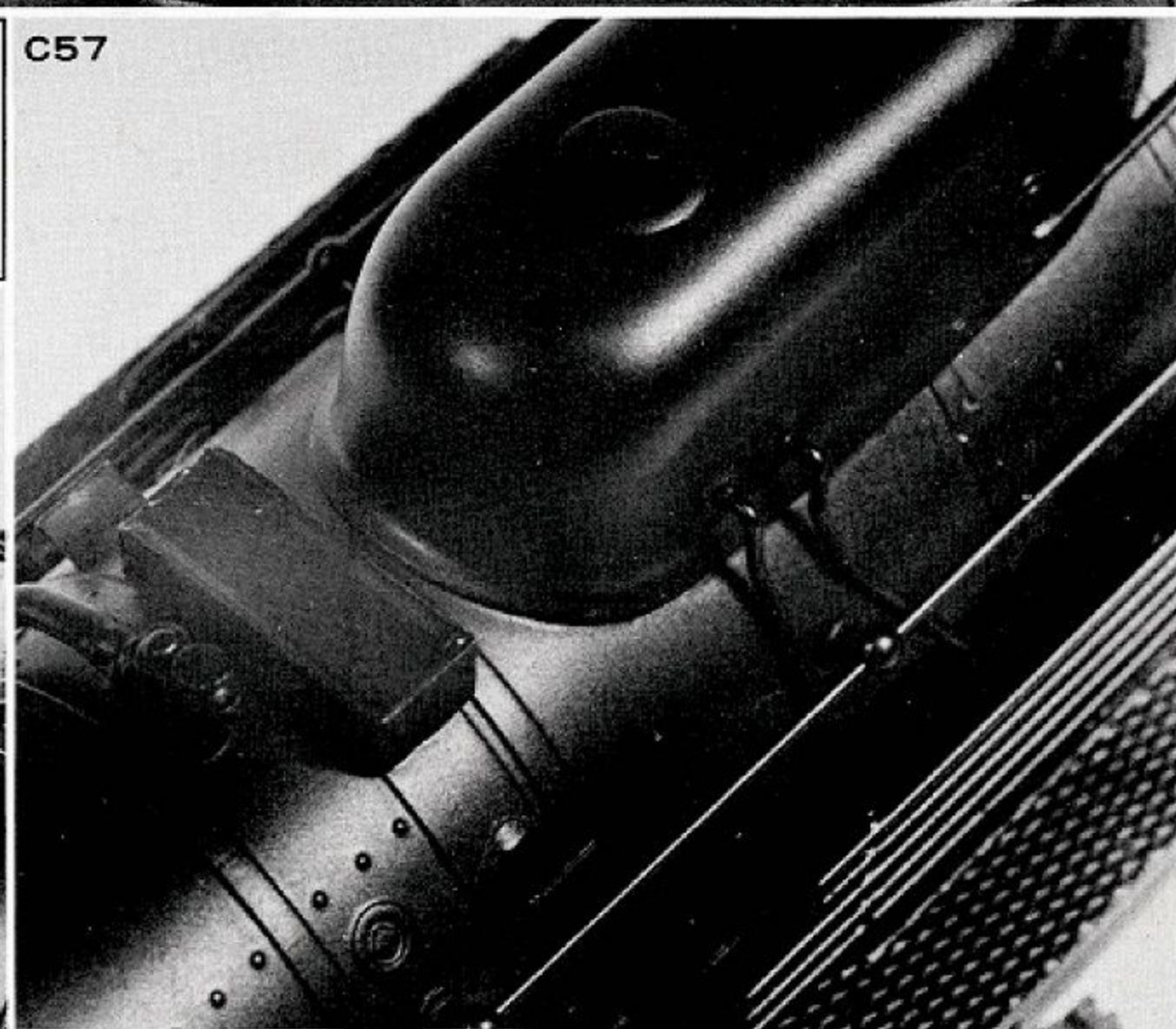


C55



Adachi C55・C57

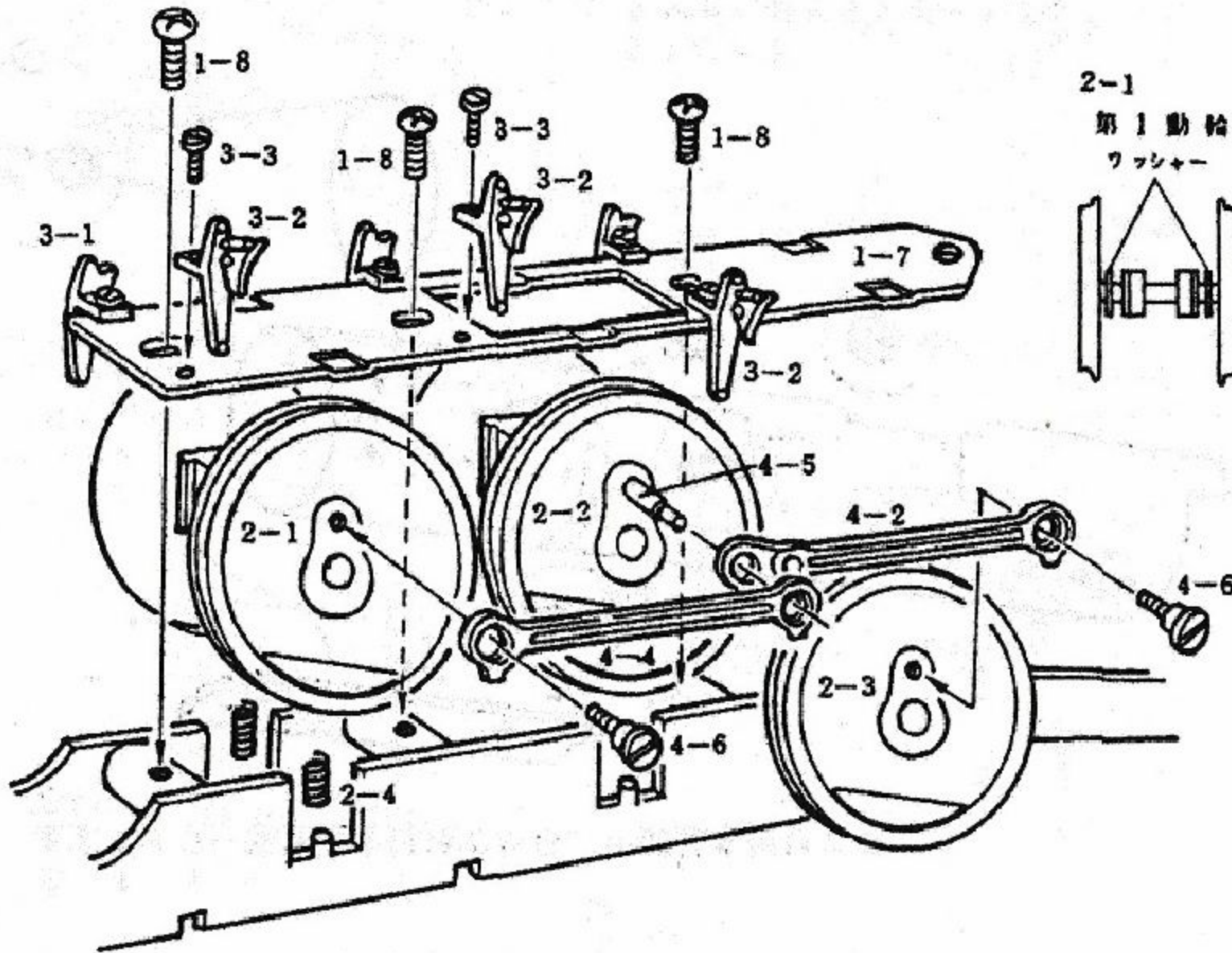
C57



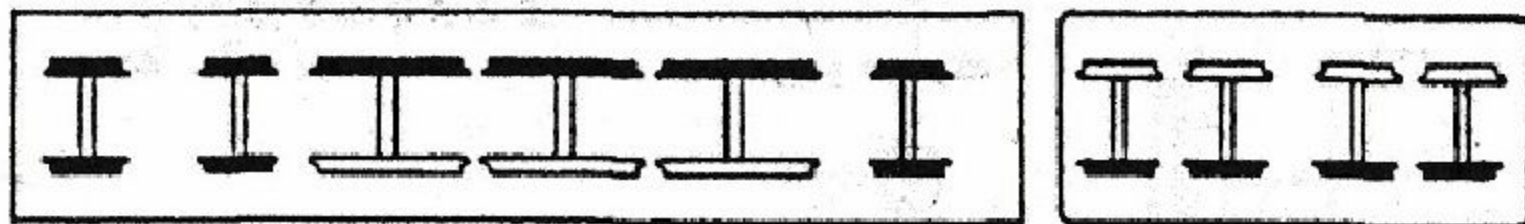
C55 動輪

動輪、サイドロッド

第2動輪 2-2はギア付です。第1動輪 2-1は図の様に車軸にワッシャーが入って横動を押さえています。第2、第3動輪はカーブを通過しやすい様に横動をあたえています。

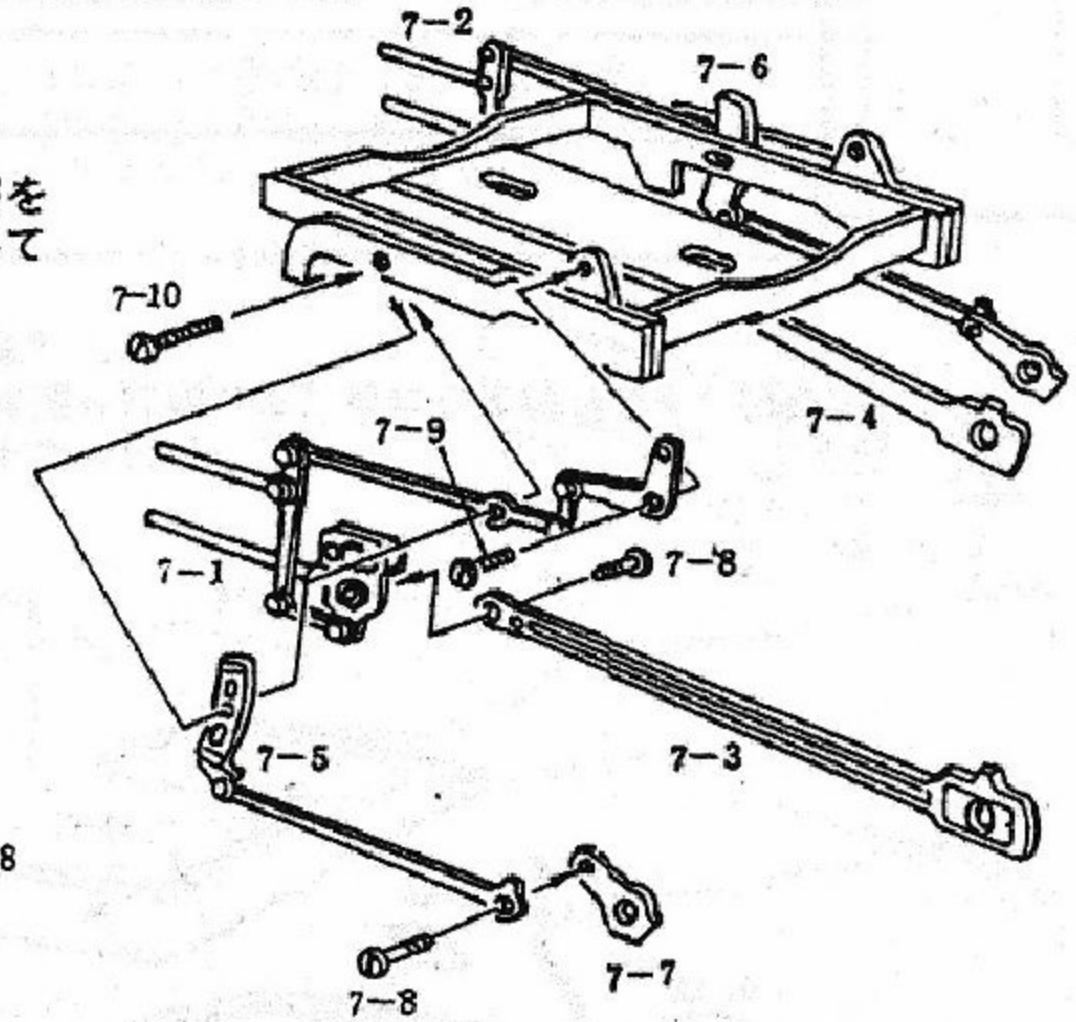


車輪絶縁の方向
下から見た図です。黒が絶縁車輪です。

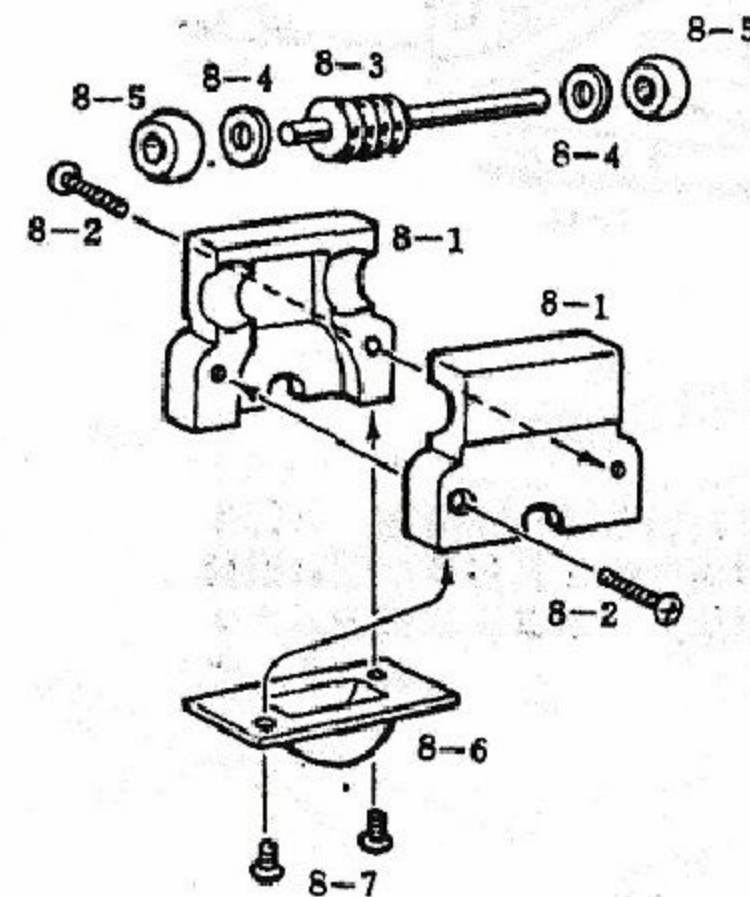


バルブギア

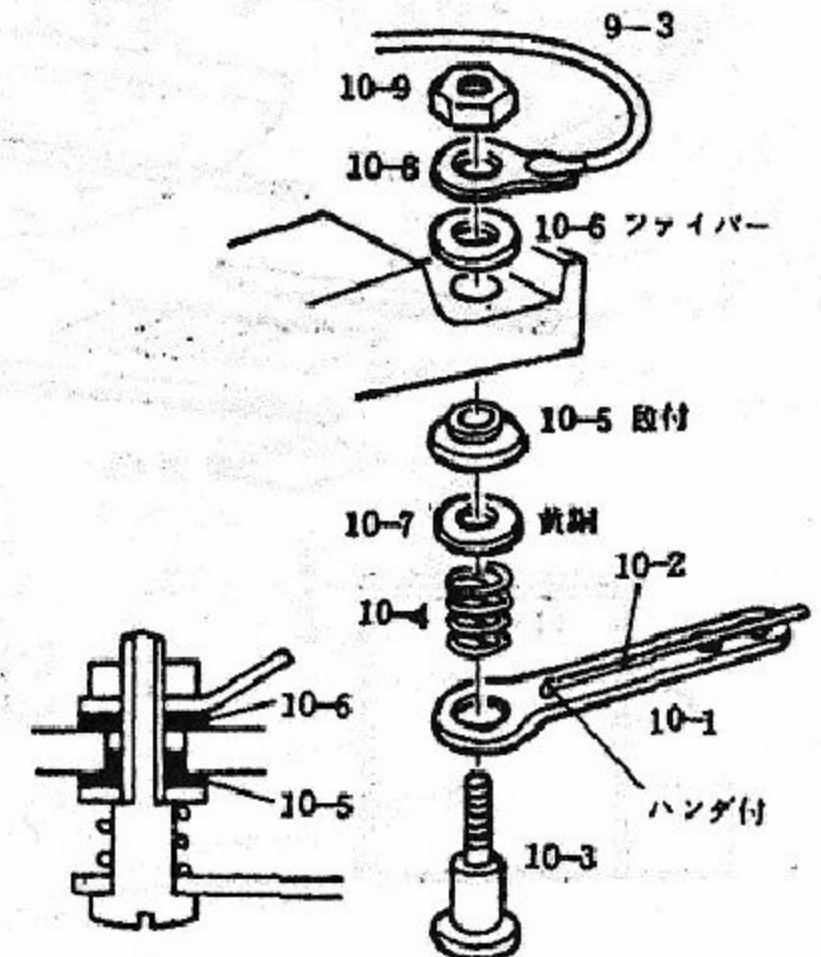
各所の止メネジの使用を
まちがえない様にして
下さい。



ギアボックス
車輪へ取り付け前にグ
リースを入れて下さい。



ドローパー



C 57

